

愛知県ティーボール連盟 ティーボール規則

【国際交流の部】

1. 施設と用具

- ① 塁間と外野フェンスまでの距離
塁間は16mとし、外野はフリーとする（グラウンド設営時に決定とする）
- ② 用具：ナガセケンコー11インチセット（11インチボール）バットは L・M・S
グローブ使用は自由。スパイクは禁止する。ヘルメットは使用しない。
- ③ バッターズサークル
本塁プレートの角を中心として、半径3mの円を描く。打者はこのサークル内で打撃を行う。
- ④ バッティングティー
バッティングティーは、本塁プレートの後方30cmに置く。

2. 競技者

- ① 競技者の数
登録選手は1チーム10人以上20人までとし、小学校6年生以下の子供で構成する。
対戦チーム同士の選手数が異なる場合は、少ない方の人数に合わせる。（最低10人）
- ② 守備者の数と守備位置
守備者は10人とする。
10名の守備者は、本塁手と、1塁手、2塁手、3塁手、第1遊撃手、第2遊撃手の5人の内野手と、4人の外野手に分かれる。外野手は、左翼手、第1中堅手、第2中堅手、右翼手に分かれる。その他の選手は、エキストラヒッター【打つだけの選手】とする。

3. 守備者規程

- ① 本塁手は、打者が打撃をするまで、バッターズサークルの外にいないなければならない。
- ② 守備者は打者がボールを打つまで内野（塁間をむすぶ線内）へ入ってはならない。

4. 打撃規程

- ① 審判が「プレイ」と宣告した後、打者はバッティングティーに載ったボールを打つ
- ② 打撃時の軸足の移動は1歩までとする。2歩以上動かした時は、打ち直しとし
ワンストライクが加えられる。ツーストライク後に、これを行った時は、打者は三振である。
- ③ 打者がボールを打たないで、ティーを打った時は空振りでワンストライクが加えられる。
ツーストライクからこれを行ったときは、打者は、三振である。
- ⑤ 打者が打ったボールが、本塁プレートから3mの円の中にボールがあるときはファウルとする。
ツーストライクからのファウルは、打者はアウトである。
- ⑥ バントやプッシュバントは、認められない。打者はアウトである。
- ⑦ バットの投げ捨てがないよう、各チームで指導する。

5. 走塁規程

- ① 走者は打者が打った後離塁する事が出来る。走者の離塁が早い時走者はアウトになる。
- ② 盗塁は認められない。

- ③ 原則としてスライディングは禁止する。(行うと走者はアウト) ただし、野手との接触を避けるためならよい。走者の1塁、2塁、3塁での駆け抜けは認められる。(走者は塁ベースを駆け抜けた後、進塁の意思がない場合には、野手にタッチされてもアウトにならない)
- ④ 野手が守備したフェアボールが、悪送球などのよってファウル地域の競技場境界線を出たとき原則として安全進塁権1個を与える。

6. 試合

- ① 2チームが攻撃と守備に分かれ、攻撃側の全打者が打撃を完了した時点で攻守を交代し、最終回を終えたとき得点の多いチームが勝者となる。
(残塁の走者は次回に受け継ぐ。最終回の残塁者はこの限りでない。)
- ② 試合の規程回数は2回～3回とする。
- ③ 球審によって「プレイボール」が宣告されると、試合は開始される。
- ④ インフィールドフライのルールは適用しない。
- ⑤ 試合は全員打撃で行う。
- ⑥ 対戦チーム同士の選手の数が異なる場合は、少ない方の人数に合わせる。(最低10人)
- ⑦ タッチアップはありとする。
- ⑧ 同率の場合は、ホームラン競争にて順位を決める。

7. 選手の交代

選手の交代については監督が審判に申し出る。再出場も可能とする。

8. 得点

走者がその回終了までに、正しく1塁、2塁、3塁、本塁に触れた場合1点が記録される。

9. 得点係

得点が多く入るので、各チームで1名得点係を決めておくこと。

10. コーチャー

各チームは1塁、3塁にコーチャーを出すこと(母親を除く)

11. 背番号及びゼッケン

競技者(打者)は、試合前にあらかじめ打順どおりのゼッケンをつけること。

13. 審判員

- ① 審判は、2人制で行う。2人は球審1と、塁審1塁に分かれる。
- ② 球審は、打者の正面横に立つ。
- ③ 塁審は、1塁手の後方、1塁のファウルライン外に立つ。
- ④ 球審と塁審は、打者走者の進塁が一段落したときに「タイム」をかける。
または、捕手が返球されたボールを捕球したその時「タイム」をかけ、次のプレイに移るようにする。

*その他の競技ルールは原則として日本ティーボール協会のオフィシャルルールによる。